

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員同士で話し合いを行い、大切にしたい事について意見をそれぞれ出し合い理念をつくりあげた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ダイニングやエレベーターホールの見やすい位置に理念を掲げ、職員が目指す目標として、常に意識し取り組んでいけるようにしている。しかし、理念を説明する機会を設けていない。	○ 新しい職員が入ってきた時に、理念の説明をし理解してもらえるように努める。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をダイニングやエレベーターホールの見やすい位置に掲げて、家族や来館者が来られた時に見ていただけるようにしている。しかし、理解してもらえるような取り組みはしていない。	○ 入居時にご家族に理念の説明をしたり見学に来られた方に対して説明するように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	家族や見学の方が来られた時に、「いつでも気軽に来てください」と伝えたり、散歩に出かけた時は、出会った人に挨拶をしたりしている。又、運営推進会議を行い、地域の方と交流を持つ機会が増えるよう話し合いをいっている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭、文化祭を開催し、地域の方々に来ていただき交流を図ったり、地域の行事に参加できるようにするために情報を集めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ポスティングや納涼祭などで、施設を知ってもらえるよう取り組み、サービスの情報を流している。全体会議にて、職員同士話し合いを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	GH会議で、管理者が説明をしている。自己評価は、職員の皆で評価を行い、業務の見直しをしている。改善点を指摘されたら、再び会議を行い、改善に向けての話し合いをし取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。区長、市職員、ご家族様、民生委員、利用者様と意見交換をし、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で行き来する機会ほとんどない。	○	今後、連携を密にとっていけるような機会をつくっていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員が、権利擁護について学ぶ機会を設けていない。それらが、必要な人に活用できる支援は、管理者が行っている。	○	職員全員が理解できるような研修や勉強会を開くなど、機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けていない。虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止には努めている。	○	研修を行うなど、学ぶ機会をもてるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談を受けた時から家族や利用者が不安に思っていること、疑問点をなくせるよう十分な説明を行い、納得していただいでから話をし進めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中から聞き、意見を反映させるよう随時話し合いをしている。外部へ表せる機会は運営推進会議にて設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「そよ風新聞」という毎月の利用者の様子や行事の報告を載せた新聞を月に1回、請求書をお渡す時に、一緒に同封している。又、面会に来られた時や電話にて随時報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会以外は、機会を設けていない。	○ サービスの質の向上につなげていく為にも家族会などで、話し合いできる場をもてるよう努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や全体会議などで、職員の意見を聞き、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出レクでは、転倒や事故の防止の為に職員を増やしたりと、柔軟に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の受けるダメージを考慮し、なるべく軽減できる方法を考え臨機応変に対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社内外の研修の参加を促し、職員は積極的に参加している。研修を受けた職員は報告書を作成し、他職員に情報をおとしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東毛ブロックの協議会主催の職員研修会に参加し、研修を行うと同時に情報交換や交流を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員と交流を深め、不安や悩みに耳を傾け話を聞き、ストレスが軽減できるよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の業務実績を把握する為に、個々の目標を検証する機会を設けている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談の頃より、電話や面談で、度々ご本人の話を傾聴する機会を持ち、支援へとつなげている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人様と同様、ご家族が不安に思っている事、求めている事を、面談、電話にて納得していただけるまで十分に話し合う機会を設けている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる事とできない事を、はっきりと伝え、利用者の希望に沿ったサービスが提供できるよう、ご家族と共に納得のいくまで話し合いの場を設けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、数回見学に来ていただき、既に入居されている方との対話等を通して雰囲気や居室の造りを知って頂く。又、ほとんどの場合、2～3日程度体験入居をして頂いて、徐々に馴染んで頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長く生きてきた人生の先輩として、本人の話に耳を傾け、会話を通してたくさん知恵を頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態が良くなった時など、喜びを分かち合っている。今まで生活を共にしてきたご家族の意見は重要であるので、より良いケアができるよう意見交換を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と入居者様、それぞれから話を聞く。又、2人の会話等から関係の理解に努め、今後も良好な関係が続いていくよう支援を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人や親戚など、大切な人たちが面会に来られた時、また次も来たいと思って頂けるよう良い雰囲気作りや対応に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ダイニングの席の考慮をして、仲の良い人は近くに、気の合わない人は、席を離すなどして対応している。また、皆で楽しめるレクや話題を提供して、入居者様同士が仲を深めてもらえるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了すると、関係は継続していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	些細な会話や生活態度の中から、ご本人の希望を察知し、出来る限り望むケアを提供できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族から伺ったこれまでの生活状況から、入居者様の状態を把握し、介護計画書より、これまでのサービス内容等が分かるようまとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録、バイタル表の記入により、入居者様の状態が把握できるようにし、職員が常に目を配るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、グループホーム会議、ユニット会議を行い、職員で話し合い、より良いケアのあり方について考え、介護計画を作成している。又、ご家族の面会時など希望を伺い取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っており、必要であれば、家族の方にも意見を頂き、新しい介護計画を作成している。又、主治医からのアドバイスも取り入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランの実施、特記事項記入し情報を共有している。また連絡事項等は申し送りノートにて情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望を伺い、出きる限り要望に合った支援をしている。地域とも関わりを持ち支援している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議、行事やイベント等で地域の方々に周知、お招きし周知お招きし、支援している。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望によりマッサージの先生に來所していただき、治療をおこなっていただく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は権利擁護の対象者はおりませんが、入居者の中には、権利擁護から成年後見人制度に移行し入居生活を続けていり方もおります。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回定期的に診察して下さるホームドクターがおり、家族からの希望があれば相談し、適切な診察を受ける事ができる。入居者様の特変時適切なアドバイスや往診等もして下さる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>医師との連携を図りつつ、訪問看護ステーションとの連携体制を図る予定もある。(家族からも医療連携の同意書は取り交わしが済んでいる)</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>ターミナルケアの体制までは整っていないが、常に現在の状態や変化等をご家族に連絡しグループホームでの対応が困難になった場合戸惑うことがないように支援していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の思い、考えを尊重し支援している。個人情報の管理は施錠可能な場所で保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の思い希望に沿ったケアプランえを作り、アセスメントやカンファレンスは月に1回職員が集まり、本人の意思に沿った内容になっているか確認している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで自由に過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣時、介助が必要な入居者様においてはご自分で選んで頂いている。定期的に訪問理容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る入居者様には食器洗い・テーブル拭き・おしぼりたたみ等をお願いしている。また調理レクを行い入居者様と一緒に食事作りを行い、出来ることはお願いしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的な制限があったり、他の入居者様との関わり等で希望通りには提供出来ない場合も多い。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレに行く時間帯をチェックし、排泄の時間帯に近づいたら、声掛け誘導を行う。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に問題がなければ、在宅の入浴時間に合わせ、毎日夕方より入浴にお誘いをしている。入浴の順番は、その日の入居者様方の様子を踏まえ日々変動する。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	良眠して頂けるよう、声かけや見守りを行っている。また、夜間眠りの浅い方には、極力日中に活動していただけるように、レクの参加等を促し、生活のリズムの改善等を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設の一部を家庭菜園としてあり、四季それぞれに野菜や花を育てていただく。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、事業所で行っている。入居者様が希望する物があれば、必要に応じて職員がご本人様のお預かり金から、購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気候に応じ近くの公園まで散歩に出掛けている。一人ひとりとは行かないが、職員1名に対し、2名から3名程度で出掛けるときもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に計画を立て、外食や外出が出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状では、入居者様やご家族様からこのような要望はない。	○	今後、このような要望があれば支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族等の訪問時は、挨拶・礼儀などに十分に気をつけ、笑顔で明るく接している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠する事に対する弊害はあると思われるが、安全面に考慮し、入り口、エレベーターの施錠を行っている。(窓ガラスには、転落防止の為に、ストッパーが掛かっている。)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人のプライバシーを尊重しつつも、入居者様の傍に寄り添ったり、見守ることで、安全面に対し、配慮を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、カッターなどは、鍵のかかる机の引き出しにしまって保管している。包丁や洗剤などは高い位置の棚にしまっておくなどして、危険を防いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット報告書、業務処理報告書の記入をし、普段から職員全員が閲覧できるようにしている。また、グループホーム会議等で読み上げ、職員間での共有化を図っている。	○	研修等に参加し、事故防止の為の知識を学び、事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域や認知症連絡協議会などで主催される「救急救命講習」などに全職員が順番に参加し、職員全体のレベルアップを図るようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は11月と5月を目安に実施している。しかし高層施設である為、屋外までの避難は出来ず、ユニット毎に救助用窓(消防隊がはしご車で救助に使用する窓)付近までの避難誘導となっている。	○	近隣住民とは救助時に来て頂けるまでの連携は図れていないため、今後は迅速に課題に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒やふらつき、ヒヤリ・ハット報告や事故報告に記載する内容はご家族に報告し、同様の事がおこらないように注意していく。	○	ご家族には出来る限り、入居者様の状態を理解して頂けるよう報告等への努力を行っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段からの様子やバイタル測定や検温食事摂取量の記録を基に、些細でも異変に気付けば掛かり付け医や看護師に状態を伝え、指示を受ける等の対応を心掛ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の処方箋をファイルにまとめ、職員は必ず把握出来るよう目を通し、必要に応じホームドクターのアドバイスの下、身体状況に則した服薬支援を行う。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを行い、便秘にならないよう水分摂取を促がす。また、身体を動かす機会として体操や散歩を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で口腔ケアが行える入居者様に対しては声掛けにて促がし、自力でのケアが困難な方に対しては、職員が洗面台まで誘導し、見守りあるいは介助を行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の少ない方に声掛けし、摂取を促がす。また、摂取して頂けるよう入居者様の好きなものや食べ易いものを提供している。(イン・アウト表の実施)	○	半年に1回、ホームドクターによる採血検査を行い、栄養摂取量が不足気味の方には食事形態を工夫し、食べ易い物を提供したり、栄養補助ドリンク等を用い改善に努める。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、職員が感性症に対しての対応策を検討し、実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の購入は週に2度行い出来るだけ新鮮な食材を使い調理にあたる。また、食器類は毎回消毒し使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内に花壇を設置し、花や野菜を栽培し、高層階の施設故、入りづらい雰囲気がある為、家庭的な環境に近づけるよう努める。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングなどの共用スペースは入居者全員が楽しむ場所として、テレビの音量などにも注意し、入居者同士の会話の妨げにならないようにしている。日中はカーテンを開け、外光を取り入れるなどし居心地の良い環境を作るよう努める。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングには大きなテーブルやソファがあり、そこに座り入居者様同士で談話をされている。エレベーターホールでは独りで植物に水やりを行っている方や、職員と談話されている姿がみられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居時に使い慣れた家具等を持ち込んでいただき入居者の 合わせた居室作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎日必ず換気を行い、温度・湿度調整はその日に合わせ職 員が行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置してあり、歩行時に使用して 頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	洗濯物たたみや食器洗い、掃除等出来ることをして頂き、張 りのある生活を送っていただく。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	敷地内の花壇を利用し、季節の花や野菜などの栽培を行 い、収穫した野菜は食卓に並び、入居者様に召し上がって 頂く。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1ユニット6名となっている為、入居者様一人ひとりに職員の目が行き届いている。入居者様と多く接することができる。居室が広く、馴染みの家具を置くことができる。各居室にトイレがついている。入居者様とのコミュニケーションを大切にし、職員一人ひとりが笑顔で接している。入居者様の思いを受け止め、気持ちが穏やかになるような生活が送れるよう、温かい環境作りに努めている。